

〈幼稚園教育〉

幼児が自己を発揮し、共通の目的を見つけ遊ぶ楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫
～友達と一緒に遊ぶことを通して～

八重瀬町立東風平幼稚園教諭 津波利恵子

I テーマ設定の理由

〈今日的課題〉

現代の子ども達が人とのかかわりにおいて多くの困難を抱えていることが、メディアの間で指摘され、いじめ問題など頻発する少年少女の事件を見ても、家庭をはじめ周囲の身近な人々と肯定的な関係を結べていないことがその背景にあると言われている。近年、少子化や都市化、社会の情報化などの変化に伴って、家庭や地域での人とのかかわりの体験が少ない子ども達が増えてきている。

〈幼稚園教育要領より〉

教育要領の改訂に伴い「人間関係」の領域でも「ねらい」が変更され「進んで身近な人とかかわり……」の部分が「身近な人と親しみ、かかわりを深め……」となった。このねらいは、入園から修了まで時間をかけて、子ども達が人と出会い、自己を発揮し相手を理解しながら、いろいろな友達と協力できるようになっていく過程を重視することを表している。これを受けて、領域「人間関係」の12あった内容が13に増え、新たに人間関係の深まりに関するものとして「(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。」が加わった。これは、改訂の主要な柱の1つで「協同する経験を重ねる」といわれる。「協同する」とは、一人一人の子どもが自己を発揮し、相互に調整し合いながら、新しいものをつくり出していく過程である。その過程を何度も経験し重ねていくことで、友達と一緒に共通の目的に向かってそれぞれの思いを出し合いながら、工夫したり協力したりして、遊びや活動を進めることができる。

〈本園の幼児の実態〉

本園は、2年保育を実施している。年長組は進級児以外にも保育園や家庭から入園してくる生活環境の違う子が集まっている。入園当初は、すぐに遊び出すことができる幼児もいるが、教師の後を追ったり、他の幼児の遊ぶ様子を伺ったり、不安になり泣き出す幼児の姿も見られる。徐々に気の合う友達同士で環境にかかわり遊ぶ姿が見られるようになるが、自己主張のぶつかり合いによる幼児同士のトラブルも多く、自分の気持ちや思いを言葉で伝えるのが苦手である。

〈これまでの保育を振り返ると〉

生活環境の違う幼児に対して、興味関心の持てる遊びや活動の環境構成をしてきただが、一人一人に対して自己発揮できる言葉かけや自信につなげられるような援助をしていただろうか。自ら行動し友達と試行錯誤しながら活動を展開していく楽しさを味わわせることができていただろうか。教師の思いが先行していなかったのではと反省する。

〈本研究において〉

友達と一緒に遊ぶことを通して、幼児が自己を発揮しながら、共通の目的を見つけ遊ぶ楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫を探っていきたい。そこで自己発揮できるよう、幼児なりに取りんでいる姿を認め、時には一緒に行動しながら励まし自分らしい行動ができるように援助する。そして、幼児同士が思考錯誤し活動を展開していく中で、互いに信頼感を持つようになり共通の目的を見だし遊ぶ楽しさを味わうようになると考え本テーマを設定した。

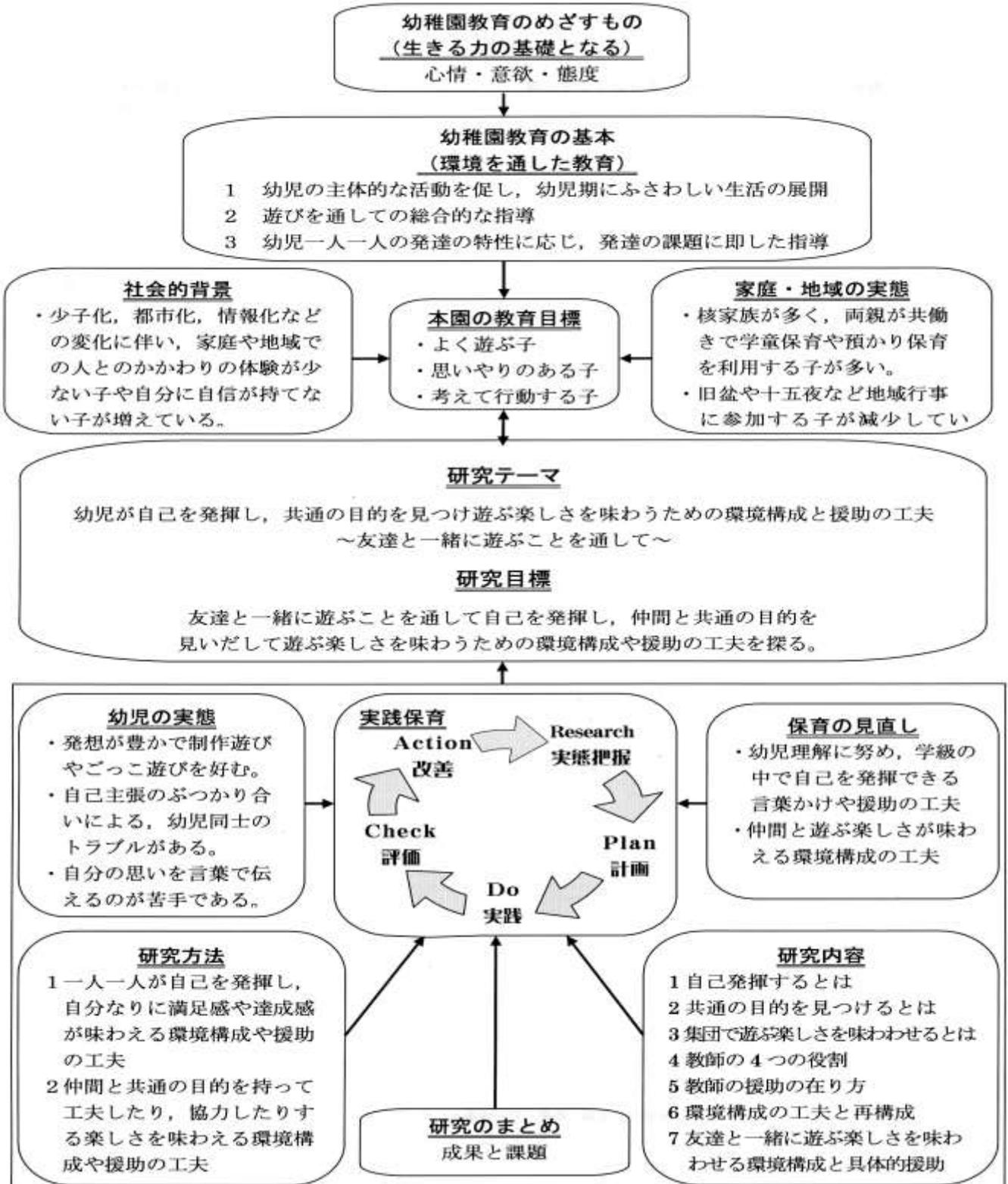
II 研究の目標

友達と一緒に遊ぶことを通して自己を発揮し、仲間と共通の目的を見だして遊ぶ楽しさを味わうための環境構成や援助の工夫を探る。

Ⅲ 研究の方法

- 1 一人一人が自己を発揮し、自分なりに満足感や達成感が味わえる環境構成や援助の工夫をする。
- 2 仲間と共通の目的を持って工夫したり、協力したりする楽しさを味わえる環境構成や援助の工夫をする。

Ⅳ 研究の構想図



V 研究の内容

1 自己発揮するとは

西久保礼造（1995年）は、自己発揮について『自己発揮とは、幼児の中に潜んでいる可能性を十分に引き出すことである。それは、幼児が幼稚園生活の中で「目標が持てるようになること」「その目標に安心して取り組めること」「目標への成功感、到達感が味わえること」「そのことによって、自信が持てるようになること」の積み上げによって可能となる。しかし、その前提としては、保育者と幼児の間に、また幼児と幼児の間に信頼関係が作りだされることが必要となる。』と述べている。

幼児は、自分のありのままの姿を温かく受け入れてくれる教師との信頼関係が築かれることで、自分の居場所を見つけ、安心して自分らしい動き、自分のやりたい遊びに取り組み自己を発揮するようになる。

2 共通の目的を見つけるとは

友定啓子（2008年）は、「共通の目的については、課題活動のように目的がはっきりしている場合もありますが、遊びの場合は一人ひとりの幼児がそれぞれの思いやイメージを出し合い、調整しながら実現していくことが目的になります。」と述べている。

幼児は他の幼児と一緒に楽しく遊んだりいろんな活動をしたりしていく中で、「〇〇ちゃんは踊りが上手」「〇〇君は制作するとき面白い物を作る」「〇〇ちゃんはいつも優しい」など互いのよさや特性に気づくようになっていく。そして、遊びの中で、互いにイメージや思いを出し合いながら、共通の願いや目的が生まれ工夫したり、協力したりして遊びを進めていくことができるようになる。その時、そのイメージや目的を実現させようとして、互いの自己主張がぶつかり合い、折り合いを付けることを繰り返しながら、おもしろさや大変さ、目的が実現した時の充実感や喜びを味わうことができる。

3 集団で遊ぶ楽しさを味わわせるとは

一人一人の幼児が自ら行動し、他の幼児と共に活動する中、みんなでやってみようという共通の目的が生まれ、工夫したり協力したり試行錯誤しながら活動を展開していくようになる。

共通の目的は実現するしないにかかわらず、幼児自身が活動そのものを楽しんでいることで、またみんなで一緒に活動したいという気持ちになる。共通の目的が実現した場合、その喜びを十分に味わうことが次の活動につながっていく。このような経験を通して、集団の中で一人一人のよさが発揮され、一人では出来ないこともみんなが力を合わせれば、実現するという気持ちが育つようにすることが大切である。学級全体で取り組む活動など、一人遊びや小さなグループでは、味わうことのできない集団での遊びの楽しさや醍醐味を味わうことができる。

4 教師の4つの役割

幼児の主體的な活動を促すため教師は、様々な役割を果たしていかなければならない。一つは、幼児の活動のよき理解者としての役割、二つめは、幼児との共同作業者としての役割、三つめは、あこがれを形成するモデルとしての役割、四つめが、遊びの援助者としての役割であり、幼児の発達に必要な豊かな体験が得られるよう、活動の場面に応じて適切な指導を行うようにすることが大切である。



5 教師の援助の在り方

※一人一人の幼児に対する理解に基づき、環境を計画的に構成し、幼児が主体的に活動に取り組めるように、一人一人の発達に応じた援助のタイミングや援助の仕方考えることが大切である。

(1) 幼児の自己発揮を促す援助として…

- ① 一人一人を温かく受け入れ、自分の居場所を確保してあげ、安心感を持ってやりたいことに取り組めるようにする。
- ② 一人一人の幼児の気持ちや欲求など目に見えない心の声を聞き、内面を理解し、教師や友達と十分触れ合うことで安心して幼稚園生活を過ごすことができるようにする。
- ③ 幼児なりに取り組んでいる姿を認めたり、時には一緒に行動しながら励ましたりして、幼児が安心して自分らしい動きができるような状況をつくっていく。
- ④ 幼児が友達と一緒に生活していく中で、自分の思っていることを相手に伝えることができるように、また、徐々に相手にも思っていることや言いたいことがあることに気づかせるようにする。

(2) 共通の目的を見つけるための援助として…

- ① 他の幼児と一緒に楽しく遊ぶ中で、具体的な場面を通して相手のよさに気付かせていく。
- ② 互いのイメージや考えを引き出し、共通の目的を見つけ工夫や協力ができるようにする。
- ③ 幼児の心に寄り添い、友達と共に遊ぶ楽しさを経験させることで、友達と一緒に物事をやり遂げたいという気持ちを高めていく。

(3) 集団で遊ぶ楽しさを味わわせる援助として…

- ① 幼児が共に活動する中で、自分の思いを伝え合い、話し合い、新しいアイデアを生み出したたり、自分の役割を考えて行動できるようにする。
- ② 一人ではできないことも力をあわせれば可能になるという気持ちが育つような援助をする。
- ③ 小さなグループでは味わえない集団での遊びの楽しさや醍醐味を感じることができるようにする。

6 環境構成の工夫と再構成

※環境構成において重要なことは、その環境を具体的なねらいや内容にふさわしいものとなるようにすることであり、幼児が自ら発達に必要な経験を積み重ねていくことができるような環境を作り出すことが大切である。幼稚園教育要領解説(文部科学省)を参考に環境構成の視点を以下のようにまとめた。

(1) 発達の時期に即した環境

- ① 不安や緊張が解けない時期には、幼児が安心して自分の遊びに取りくめるよう物や場を整え、教師や友達と一緒に過ごす楽しさが感じられる雰囲気作りが大切である。
- ② 安定して遊べるようになる時期は、幼児が友達との遊びを安定した状態で進めたり、広げたりできる場の構成や活動の充実に向けて、必要な遊具や用具、素材を準備することが大切である。
- ③ 人とのかかわりを広げ深めていく時期は、友達と力を合わせ継続して取り組める活動や自分の力を発揮し、探求心や挑戦する意欲を高めるような環境構成が重要である。

(2) 興味や欲求に応じた環境

- ① 幼児の中に育ててほしいと思うことや指導のねらいによって、環境を構成することが重要である。
- ② 幼児が生活の中で、葛藤、挫折等の体験をしたり、達成感や満足感を味わったり、自分の力で乗り越えられるような困難といった要素も環境の構成の中にも含める必要がある。
- ③ 幼児の興味や関心を大切にしながら、活動の充実に向けて幼児と共に環境を構成し、再構成し続けていくことが大切である。

(3) 生活の流れに応じた環境

- ① 幼児が前日の遊びが楽しかった、翌日も続きの遊びがしたいと、前日から翌日、前週から翌週と幼児の興味や意識の流れを考慮した環境の構成を工夫することが大切である。
- ② 季節の変化や自然事象と深くかかわる幼児の生活を大切にして、様々な自然環境に触れることができる環境の構成を工夫することが大切である。

7 友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わわせる環境構成と具体的援助

幼児が共通の目的を見つけ、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうようになるには、教師が幼児一人一人の内面を理解し、発達の時期や興味や欲求・生活の流れに応じた環境を構成し、他の幼児との多様なかかわりが持てるように援助していくことが大切である。これまでの理論研究や実践などを踏まえて、幼児の遊びと環境構成、それに伴う教師の援助、そして、子ども同士のかかわりや変容を考えて1年間の計画を表にまとめてみた。(表1)

表1 友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わわせる環境構成と具体的援助(年長組)

月	(遊び) 幼児の姿	環境構成	☆教師の援助 ○再構成	遊びの変化、発展	子ども同士のかかわりや変容
4月	(折り紙遊び) ・知っている友達と一緒に折り紙で、チュールリップやリボン、飛行機など思い思いの物を折る。 	・いつでも折り紙遊びが楽しめるようコーナーを設ける。 ・多くの子が興味関心を示せるよう折り紙の本を並べたり、友達の作った作品を飾ったりする。	○一緒に鯉のぼりを折り、チラシを丸めて鯉のぼりを付ける棒を作る。興味を示す子が増えてくるので、折り紙やチラシを増やして制作コーナーを広くする。 ☆折り紙の上手な子に「折り紙先生」になってもらい、他児に教えていくことで友達関係を広げられるようにする。	・鯉のぼり作りをする子に刺激されて、作り出す子が増え、吹き流しや風車まで作りたいと工夫する子が見られる。 ・作った吹き流しや工夫した物を紹介することで、こいのぼり作りのイメージを共有するようになる。	・折り紙と一緒に折ったり、教え合ったりすることで、知らなかった者同士が親しくなり、一緒に行動することが増えてくる。
5月	(ままごと遊び) ・気の合う友達とままごと遊びを楽しむ。 ・食べ物をお皿にのせ食べるまねを楽しむが、食べ物が散らかったりする。	・ままごとを楽しみながら片付けがスムーズにできるよう、道具を分かりやすく配置したり、ままごと道具の数を制限したり、収納棚に絵や文字で標示していく。	☆教師もお客さんになり「誰が作ったの」「おいしいね」と会話を楽しんだりすることで刺激され、仲間に入りたい幼児が増えていくよう配慮する。 ○子ども達と相談しながら、いろんな友達とかかわれるよう、食べる場所を広くしたり食べ物の数を増やしたりしていく。	・メニューが出てきて、注文を取るなどレストランごっこに変わり、お客とお店の人との言葉のやりとりを楽しむようになる。 	・人見知りをしていた子も、教師を媒介にレストランで遊びだし楽しむ中から、気の合う友達となり自分達で誘い合って遊ぶようになる。
6月	(飼育物の観察) ・小動物の好きな友達同士でザリガニや金魚など観察し興味を示している。	・家庭から持ってきたセミや青虫、園庭で見つけた昆虫が増えてくるので、観察コーナーや関連する絵本を用意する。	○昆虫の餌、飼育の仕方と一緒に調べ、観察ケースなどを準備する。 ☆さなぎになる様子や羽化し放蝶する様子を体験させることにより好奇心や探求心をかき立てる。 ☆親しみを持って接し、いたわりや大切にすることを気づかせる。	・折り紙でクワガタ作り・空き箱制作でカブトムシの家作りをする。 ・バッタやコオロギ等昆虫の種類が増える。 	・「○○君は、昆虫のことを良く知っている」と友達の良さに気付くようになる。
7月	(色水遊び) ・好きな友達と朝顔の花ピラで色水を作り、青やピンク等色の変化を楽しんでいる。	・朝顔の他にも色の出る花があることを知らせ、異なる色の色水作りが楽しめるよういろいろな色が出る植物を身近に置く。	○知的好奇心を育めるよう、色の違いに気づかせ、色水を移せる容器やペットボトルを用意する。 ☆友達が発見した色の違いを周囲の子に伝え、色水作りの楽しさを共有させる。	・いろいろな色水を使ったジュース屋さんやペンダント屋さんが出てきた。 ・友達や先生と協力しながら、お店屋さんを楽しんでいる。	・色水を作る人、売る人、買う人と友達同士のかかわりの幅が広がっていく。
9月	(お化け屋敷ごっこ) ・2~3人の子が園庭の遊具を使ってゾンビごっこを楽しんでいる。	・教師も一緒に遊ぶ中で、ゾンビのパリアゾンを作ったり、隠れ家を作ることで遊びの幅が広がり、他の友達も増えてくる。	・学級でゾンビごっこを紹介することで、お化けごっこやお化け屋敷作りが始まる。 ・「どんなお化け屋敷にする?」と話し合うことで共通のイメージをもって取り組むようになりチケット作りや、暗幕をかける等みんなでお化け屋敷を作り出していく。	・「お化け屋敷をするよ」と宣伝して、チケット配り、出入口係、お化け役(小道具を使って驚かそうとする)になるなどそれぞれが役になりきって楽しんでいる。 	・他の学級の友達が見学に来ることで、学級以外の友達の関わりが増えていった。

10月	<p>(運動遊び)</p> <p>・のぼり棒や鉄棒、雲梯など固定遊具に挑戦したり、フラフープや縄跳びなどで気の合う友達と競い合ったりしている。</p>	<p>・幼児が主体的に取り組めるように、園庭横にフープや縄跳び、竹馬置き場を設ける。</p> <p>また、教師や友達と一緒に楽しめるように長縄も用意する。</p> 	<p>☆のぼり棒や雲梯などクリアーしたことや頑張って挑戦している姿を学級で紹介し、刺激となるようにする。</p> <p>☆時には、全員が取り組む時間を設け、仲間と一緒に挑戦したり競い合ったりする楽しさを味わわせる。</p> <p>○更に意欲が持てるように、チャレンジ表(クリアーするとシールを貼る)のコーナーを設ける。</p>	<p>・のぼり棒や雲梯など仲間と一緒に目標に向かって挑戦したり、縄跳びやフラフープ以外の運動遊びに挑戦する意欲がみられる。</p> <p>・「今日はここまでできたから明日は、ここまでできるようにしよう」と計画的に取り組もうとするようになる。</p>	<p>・仲間を誘い合ったり、長縄跳びをする子が見られたり、チャレンジ表の自分のシールと友達のシールを見比べて会話を楽しむ姿が見られる。</p>
11月	<p>(自然物を使って)</p> <p>・気の合う仲間と園庭の落ち葉を拾ったり木の実を見つけて集め、誰がたくさん集めたか競っている。</p>	<p>・みんなで集めたいような葉っぱや木の実をカゴに入れ、画用紙やテープも用意し思い思いに貼って楽しめる場所を用意する。</p>	<p>☆できた作品を貼り出したり、上手くできたところを具体的に褒めたりすることで、他の幼児へ刺激を与え、やりたい意欲を持たせていく。</p> <p>○木の実や葉っぱで作る首飾りや動物等いろんなアイデアを取り上げ、ヒモやバンドなど制作に必要な小道具を用意する。</p>	<p>・集めた葉っぱや木の実を並べて売ったり、できた作品を貼りだして売ったり等お店屋さんごっこを楽しんでいる。</p> <p>・仲間と考えを出し合ったり自分たちで場を構成しながら進めようとする。</p> 	<p>・途中で仲間になった子に作り方を教えたり一緒に作ったりしながら、お店屋さんになって売り買いを楽しんでいる。</p>
12月	<p>(お店屋さんごっこ)</p> <p>・友達と制作コーナーで作ったハンバーガーやポテトを売り買いして楽しんでいる。</p>	<p>・興味を示した子が主体的に作り出せるように、いろいろな素材や教材を揃え、参考になる図鑑や絵本も準備する。</p>	<p>☆幼児の作った物を「本物みたい！美味しそうだね」と具体的な面を捉えて褒め、他の幼児にも刺激となるようにする。</p> <p>○部屋の整理やお店の配置に気を配り、お店を増やしやすい環境にする。</p> 	<p>・食べ物屋さん、おもちゃ屋さん、銀行など、自分達のお店をどんな風にしようかと仲間と相談しながら進めていく。</p> <p>・いろいろなお店が揃い、売り手買い手となり言葉のやり取りを楽しんでいる。</p>	<p>・隣のクラスや年中組の子、先生方にお客さんになってもらうなど、いろんな人とのかわりが広がる。</p>
1月	<p>(お正月遊び)</p> <p>・カルタやすごろく、コマ回し、羽根つきなど友達と協力したり思いを出し合いながら遊んでいる。</p>	<p>・羽根つきがやり易いように大きめの羽根を準備する。</p> <p>・学級みんながお正月遊びを楽しめるようにそれぞれの物の置き場所を絵や文字で標示して整える。</p>	<p>☆教師も一緒に遊び、勝つ楽しさや負けたときの悔しさを味わわせ、勝負する面白さを感じさせていく。</p> <p>○友達同士で楽しめるよう「こま対戦カード」や「羽根つきカード」を作成する。</p> 	<p>・友達のように上手になりたいと練習したり、互いに誘い合ったり競い合う姿が見られるようになる。</p> <p>・対戦カードの結果を貼りだす場を準備することで、友達の結果に関心を示すようになる。</p>	<p>・次は○○さんに挑戦しようと友達を意識するようになり、仲間のかかわりが広がっていく。</p>
2月	<p>(ドッチボール)</p> <p>・ドッチボールの好きな幼児が集まって楽しんでいる。</p>	<p>・興味を示した幼児が、思い思いにドッチボールが楽しめるように石灰でラインを引きコースを準備しておく。</p>	<p>☆教師も一緒に取り組み、簡単なルールに沿って遊ぶ楽しさやスピード感・スリル感を味わわせていく。</p> 	<p>・男女別や学級別で勝負をしたり、いろんな仲間に対決する楽しさを味わわせていく。</p> <p>・学級対抗ドッチボール大会を行い、学級で団結して取り組む楽しさを味わわせる。</p>	<p>・仲間意識が高まり、学級で進める活動で相談したり協力したりする姿が見られる。</p>
3月	<p>(共同制作)</p> <p>・幼稚園で楽しかったことを思い思いに絵に描く。</p> 	<p>・ダイナミックに描いてもらいたいので、大きめの画用紙を用意する。</p> 	<p>☆もうすぐ終了する学級の壁面を、みんなで飾ろうと言葉をかけ、どんなイメージにするか話し合わせていく。</p> <p>○イメージに合った壁面制作ができるよう、様々な素材や教材を用意する。</p>	<p>・サッカーしている場面やお花畑の場面など、気の合う仲間同士で協力したり相談して制作を進めていく姿が見られるようになった。</p> <p>・学級みんなで、協同して壁面制作をやり遂げた達成感が味わえた。</p>	<p>・仲間と協力して取り組むなど、落ち着いた態度が見られるようになる。</p>

VI 研究の実際

1 検証保育（1回 1月7日～10日）「お正月遊び」

(1) 設定理由

1月に入り、「お正月遊び」のこま回し、羽根つき、けん玉、カルタ取り、すごろく等 興味や関心を示し気の合う友達同士で取り組んだり、活動によっては、いろいろな友達とかかわって、主体的に取り組む姿がみられるようになった。友達や教師とかかわりながらお正月遊びに取り組む中で、一緒に競い合う楽しさ（こま回しや羽根つき）自分達で進めていく面白さ（カルタ、すごろく）試したり工夫したりして充実感を味わえる（けん玉作り）ための環境構成の工夫や教師の援助の在り方を考えていきたいと設定した。

(2) 保育のねらい

・お正月遊びを通して、共通のイメージを持ち一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

(3) 保育の内容

- ・自分の思いを出し合いながら試したり工夫したりして楽しむ。
- ・友達とルールを確認したり、相談したりしながら遊びを進めていこうとする。
- ・使った物を片付けてから、次の遊びに移れるようにする。

(4) 検証のねらい

・お正月遊びを通して、共通のイメージを持ち遊ぶ楽しさを味わわせる。

(5) 指導案 1月10日（木）1回目検証保育

指導案		東風平町立東風平幼稚園		平成25年1月10日（木）		きく組 男児16名 女児14名 合計30名 担任 津波 利恵子	
幼児の姿	・こま作りや空き箱制作で、友達同士思いを出し合いながら遊びを進めようとしている。 ・お正月遊び（羽根つき、こま回し、すごろく、カルタ取り）に興味を持ち、友達とかかわりながら遊びを楽しんでいる。 ・遊びに夢中になり、遊んだ物や使った物の片付けがおろそかになりがちである。	ねらい ・	内容 ・	○お正月遊びを通して、共通のイメージを持ち一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・互いの思いを出し合いながら試したり工夫したりして遊ぶ。 ・すごろくやカルタとりでは、友達とルールを確認したり、相談したりしながら遊びを進めていこうとする。 ・使った物は元の場所に片付けてから、次の遊びに移れるようにする。			
生活の流れ	・予想される幼児の活動		○環境構成		☆教師の援助		
8:00 ・登園 ・好きな遊び	・「おはよう」と挨拶をしながら登園する。 ・栽培している野菜や花に水やりをする。 ・制作遊び（こま作り、空き箱制作）表現遊びなど友達と一緒に互いの思いを出し合いながら楽しむ。 ・使った物は元の場所に片付けてから、他の遊びをする。 ・サッカー、固定遊具、縄跳び、竹馬、ホッピングなど思いっきり体を動かした遊びを楽しむ。		☆ 挨拶を交わしながら、一人一人を気持ち良く迎え健康状態を視診する。 ☆ 友達とかかわりながら楽しんでいるので、見守り必要に応じて援助する。 ○ 共通のイメージが持てる素材や用具を提示し、片づけやすいよう環境を整える。 ☆ 制作用のテーブルが散らかりやすいので、その都度、一緒に片づけながら綺麗にすることの気持ち良さに気づかせていく。 ☆ 一人一人の頑張りを認め、補助や励ましなどより意欲が持てるよう援助をする。 ○ 道具を取り出しやすいよう場を整えながらも、物の譲り合いや交代ができるよう道具や用具の数を精選していく。				
9:30～ ・検証保育	【こま回し】 ・こまのひもを巻くのに四苦八苦しながら取り組み、自分で回せたことを喜んでいる。 ・ひもの巻き方やこまの投げ方を教え合い、自分なりの目的に向かって挑戦している。 ・仲間とこまの回し競争を楽しんでいる。 ○気の合う仲間とこまの対戦が楽しめるようにこまの対戦表を用意し、みんなが一目で分かるように貼り出すコーナーを設ける。 ☆教師も一緒に参加して、対戦する楽しさを味わわせる。 ☆こま回しのコツを教えたり、うまく回せた時をすかさず褒めて、気持ちを高めることでさらに自信を持って挑戦できるようにする。	【羽根つき】 ・二人組になって羽根つきを楽しんでいる。 ・羽根つきカードを使って、羽根つきが何回続くと挑戦している。 ○羽根がつきやすそうラリーが続くように、大きめの羽根を手作りで用意する。 ☆羽根つきカードを準備し、自分なりの目的をもって挑戦できるように援助する。	【カルタ遊び】 ・読み手と取り手になり友達と一緒に楽しんでいる。 ☆時には教師が読み手となり、リズムよくカルタ取りが楽しめるように配慮する。 ○遊んだ後は、スムーズに片付けができるように、片付けの場所を絵や文字で標示しておく。	【すごろく遊び】 ・3～4人で文字を読みながら楽しんでいる。 ○こまとサイコロが1組で収納できる容器を準備し、楽しみながら片付けができるように援助する。 (幼児の好きなキャラクター人形をこまにする) ☆教師も一緒にすごろくに取り組みながら、みんなで遊ぶ楽しさを味わえるようにする。			
11:00 ・片づけ ・話し合い							
11:45		・給食準備 給食 片づけ		13:00		・降園前のひととき	
反省評価	・共通のイメージを持って、一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができたか。						

(6) 検証保育の結果

検証の方法は、「研究の内容6」の環境構成の工夫と再構成の(2)興味や欲求に応じた環境から、事例1「羽根つき遊び」で検証する。

実践事例1「羽根つき遊び」

「羽根つき遊び」に興味を持って取り組ませたいが、市販の羽根は小さいため羽子板に当てづらく、羽根つきへの興味も薄れてしまうことが多い。羽根つきを楽しませるための環境を構成し、幼児が取り組む中で、失敗を繰り返しながら達成感や満足感を味わい、活動の充実に向けて再構成することが大切だと考える。



幼児の変容(◎) と 改善点(△)

◎手作りの大きな羽根を用意し、環境を整えることで多くの幼児が興味を示し、羽根つき遊びに取り組むようになった。

◎羽根つきカードを取り入れることで、学級の友達や気の合う仲間を誘い合って挑戦し、カードに名前を書いたり○印をつけたりと、意欲的に楽しむ姿が見られるようになった。

◎自分たちの対戦カードを壁に貼り出すことで他の友達の対戦の様子がわかり、刺激を受けて取り組む幼児が増えるなど、仲間関係に広がり見られた。

△羽根つきの場所が狭く、ぶつかる場面や順番待ちをする子が見られたので、もっと広い場所を確保し、環境を整えていくのが課題である。

2 検証保育（2回目）「仲間と一緒に力を合わせて」～生活発表会に向けて～

(1) 設定理由

これまで幼児が興味関心を持ち、自己を発揮しながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるような環境構成や援助の工夫を行ってきた。その結果として、幼児の探求心や挑戦する意欲を高めるような環境構成や援助の工夫、さらに活動の充実に向けて幼児と共に環境を再構成していくことが大切であると考えた。

そこで、生活発表会に向けて取り組む中で、幼児が互いに思いやイメージを出し合い、みんなでやってみようという目的が生まれ、工夫したり、協力したりしながら、一人遊びでは味わうことのできない集団や学級全体で取り組む楽しさが味わえるような環境構成や援助の工夫をしていきたいと考え設定した。

(2) 保育のねらい

- ・仲間と共通の目的を持ち、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

(3) 保育の内容

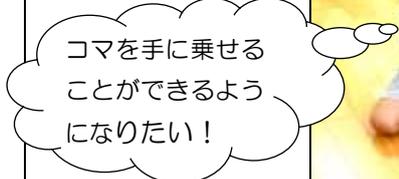
- ・お互いの思いを出し合いながら試したり、工夫したり協力したりする。
- ・友達とルールを確認したり、相談したりしながら遊びを進めていこうとする。
- ・みんなの前で自分たちの得意な物を披露する。

(4) 検証のねらい

- ・友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見つけて、工夫したり、協力したりしながら集団や学級全体で取り組む楽しさが味わえるような環境構成や援助の工夫をする。

(5) 検証保育の流れ

	検証のねらい	幼児の姿	教師の読み取り	○環境構成 ☆教師の援助 △課題
1月11日(金)	生活発表会にどんなことを見せたか、思いを出させてイメージや期待感を持たせる。	<p>・お正月遊びやこれまでの遊びの経験から、すごろく、こま回し、AKB48の踊り、制作フラフープ、縄跳び、組み体操など楽しかった遊びが出てくる。</p> <p>・AKB48の曲に合わせて踊りを楽しむ。</p>	<p>・「生活発表会は、幼稚園での楽しかったことを見せようね」の言葉かけから、楽しかった遊びを思い出して、こま回しやAKB48の踊り、そして運動遊び等を思い出したのだと考える。</p>	<p>☆やりたい遊びを黒板に書き出し、どんな風に見せたらいいか話し合う中で、幼児の思いを引き出し、具体的なイメージが持てるようにする。</p> <p>○AKB48の踊りが楽しめるよう前に使っていたマイクやカチューシャCD等を出し環境を整えておく。</p> <p>△組み体操や制作、フラフープや縄跳びには、どんな動きがあるのか問いかけ、いろんな動きに気づかせていきたい。</p>
1月16日(水)	友達と一緒に考えを出し合いながら、進めていく楽しさを味わわせる。	<p>・空き箱制作、AKB48の踊り、縄跳び、羽根つき、コマ回しなど、どんなふうにしようか友達と相談しながら取り組んでいる。</p>	<p>・気の合う友達と一緒にやりたいという思いから、相談しながら遊びを進めようと考えている。</p>	<p>○やりたい活動の用紙に、自分の名前の付箋紙を貼りつけ黒板に貼りだすことで、自分のやりたいものや仲間の様子が一目でわかるように環境を整える。</p> <p>(教師も全体の把握ができる)</p> <p>△やりたい活動が決まらない幼児には、思いを聞き出しながらゆっくり待つ。</p>



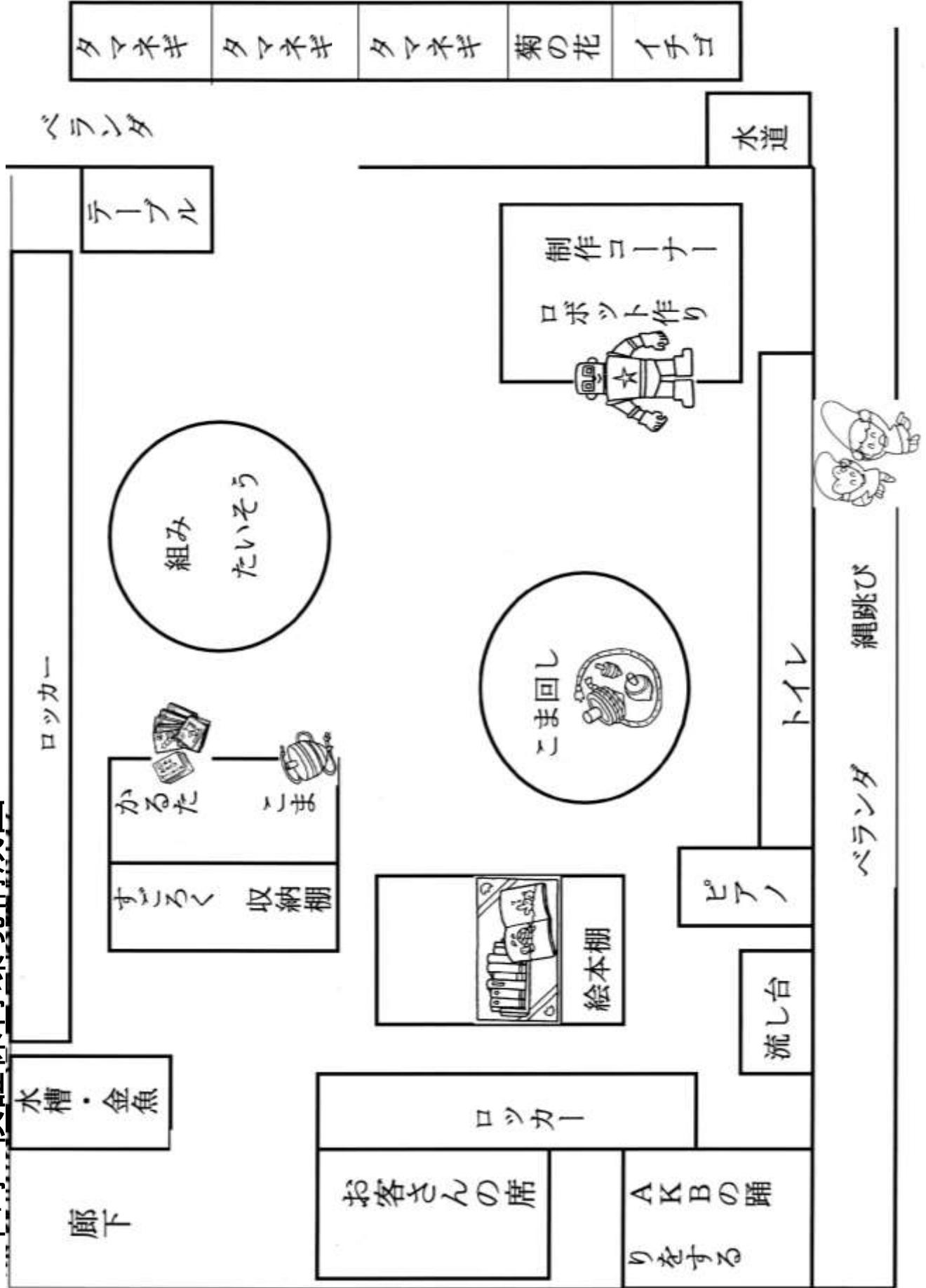
		<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びでバッテン跳びや二人跳び, コマ回しでは, 手に乗せる技等自分なりの課題に挑戦しようとしている。 ・やりたいけど何がやりたいか分からず, 迷ったり周りの様子を伺ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びやコマ回しなど「こんなことをやりたい」と自分なりの課題があると思われる。 ・自分の思いをうまく伝えることができず, 困っていると考える。 	<p>☆友達と一緒に取り組んでいる姿を褒めたり, 具体的にアドバイスをしたりすることで, より自信を持って挑戦する気持ちを持たせていく。</p> <p>○他児へよい刺激となるようみんなの前で発表や披露をする場を設ける。</p> <p>☆自分の思いをうまく伝えられない子の気持ちを汲み, 一緒に誘ったり相手に思いを伝えたりすることで友達の気持ちに気づかせていく。</p>
1月18日(金)	友達と一緒に演じたり, みんなの前で披露したりすることを楽しませる。	<ul style="list-style-type: none"> ・コマ回し, 縄跳び, 空き箱制作, AKB48の踊り, 組み体操など照れながらも交互に仲間と披露することを楽しんでいる。 ・全員がやりたい活動が決まってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしいけれど, みんなの前で披露することが楽しくなってきた。  <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の様子を見て自分も, やってみたいと思えるようになったと考える。 	<p>○空き箱制作では, ロボット作りなど仲間と相談しながら工夫ができるよう, いろいろな素材や材料を用意する。</p> <p>☆制作する時に, どんなどころを工夫したか言葉を引き出し, 自分の言葉で言えるように援助する。</p> <p>ぼくが, 空き箱で作ったヘビです。</p> <p>△組み体操では, 披露する技を自分達で取り組んでいるが, 仲間の変動があり, お互いの連携が課題である。</p>
1月21日(月)	友達と相談しながら, 仲間同士で活動が進められるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを出しロボットの色塗りや小物作りをする。 ・1人跳びや2人跳びに挑戦したり長縄跳びを楽しむ。  <ul style="list-style-type: none"> ・コマ回しでテーブルからコマが落ちないように工夫する。 ・リストバンドやベストなど, 小物を身につけ喜んでいる。 ・舞台を使って自分達の出し物を披露する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットの色塗りをすることで, 徐々に発表会に向けてイメージが持てるようになってきたようだ。 ・組み体操や縄跳び, こま回しで仲間と協力したり工夫したりする姿が, 多く見られるようになった。  <ul style="list-style-type: none"> ・小物や衣装を身につけて舞台で披露することで, 発表会に向けてイメージが持てたとと思われる。 	<p>☆ロボット作りでは完成イメージを聞き出し, 色塗りや小物作りなど完成に近づけられるよう援助していく。</p> <p>☆縄跳びでは, 上達した部分を取り上げ褒めたり, 2人跳びや長縄跳びで挑戦している姿を認め, 必要に応じて補助をする。</p> <p>○テーブルでこま回しができるように, テーブルの周りに透明の枠を付け落ちないようにする。</p> <p>☆組み体操では, 仲間と協力しながら挑戦している姿を認め, バランスの取り方やカッコいいポーズに気づかせていく。</p> <p>○発表会に向けてイメージが持てるように, リストバンドや腕輪, スカートやベスト, 小物等を準備して置く。</p> <p>△舞台を使って演じたり, 披露する場を多くするなど, 発表会本番のイメージがつかめるようにしていきたい。</p> 

本時 1月22日(火) 保育展開

指導案 東風平町立東風平幼稚園 平成25年1月22日(火) きく組 男児16名 女児14名 合計30名 担任 津波 利恵子

<p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> こま回し、踊り、運動遊び、制作と自分のやりたい活動を見つけて、仲間とかかわりながら楽しんで遊んでいる。 お互いの思いを出し合いながら、試したり工夫したりする中で、時には意見の食い違いが見られる。 自分中心に行動してしまう面のあるA男、A夫、Y男は、グループからはずれてしまうことがある。 	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間と共通の目的を持ち一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 お互いの思いを出し合いながら試したり工夫したりする。 友達とルールを確認したり、相談したりしながら遊びを進めていこうとする。 みんなの前で自分達の得意なものを披露する。
<p>生活の流れ</p> <p>8:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登園 ・好きな遊び <p>9:00～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証保育 	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される幼児の活動 ・「おはよう」と挨拶しながら登園する。 ・朝の身支度を整える。(カバン、制服、シール貼り等) ・栽培している野菜や花に水やりをする。 ・制作遊び、表現遊びなど友達と一緒にお互いの思いを出し合いながら楽しむ。 ・サッカー、固定遊具、縄跳び、竹馬、ホッピングなど思いっきり体を動かすことを楽しむ。
<p>【細跳び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前跳び、後ろ跳び、ケンケン跳び、バッチン跳び、二人跳びといろいろな跳び方に挑戦している。 ☆一生懸命取り組んでいる姿を褒めながらもうまくいかない場面では、具体的なアドバイスや補助をしてこなしていけるようにする。 ☆二人で取り組む場面では、相手と息を合わせることに気づかせて、できたときの喜びを共感し、更に意欲を持たせていく。 	<p>【空き箱制作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達と一緒に、或いは自分達なりに試したり工夫したりしながらロボット作りを楽しんでいる。 ○ロボットのイメージやアイデアが広がるように様々な素材や材料を用意しておく。 ☆ロボットのすごいや作るところや作る時に難しかった(工夫した)ところを聞き出し、言葉で伝えられるよう援助していく。 ☆A夫やA男、Y男は、自分中心に行動してしまいう面があるので、その子の制作アイデアの面白さを取り上げてみんなに知らせたり、仲間と協力していき姿を褒めたりすることで、仲間と一緒に進めていく楽しさを味わわせていくようにする。
<p>【コマ回し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こま回しが楽しくなり、手に乗せたり面白い技に挑戦したりしている。 ・若手な紐を巻くのに四苦八苦しながら取り組んでいる。 ○自分の課題にじっくりと取り組めるように、コマの数を十分に準備しておく。 ☆コマの手乗せやいろいろな技に挑戦している中で、その数を認めながら、うまくできるコツ等をアドバイスしていく。 	<p>【組みたいそう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と相談しながら、いろいろな形の組み体操を楽しんでいる。 ☆仲間と協力しながら挑戦している姿を褒めてあげ、バランスの取り方やカッコイポーズに気づかせていく。 ☆安全面に十分気を配りながら進めていくようにする。
<p>10:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ披露する ・話し合い ・片づけ <p>反省評価</p>	<p>※グループの活動に迷ったり、うまく仲間に入れない子が見られた場合は、その都度、言葉をかけて本児の気持ちを組んであげられるよう配慮する。</p> <p>☆各グループで取り組んできたことを互いに披露することで、仲間と一緒に進めたりする楽しさを味わわせていく。</p> <p>☆仲間の挑戦している姿を認めたり、友達の良さに気づかせたりしていく。</p> <p>☆今日遊んできた中で、工夫したことや良かったこと等、話し合う場を持ち、自分なりの思いを伝えられるようにする。</p> <p>☆話したがる子が予想されるので、一人一人の思いを大事に受け止めていくよう配慮する。</p> <p>・共通の目的が持て、一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができたか。</p>

本時 検証保育環境構成図



(6) 検証保育の結果

検証の方法は、「研究の内容5」の教師のかかわりや援助の仕方の(2)共通の目的を見つけるための援助として…から、事例2「組み体操」で検証する。

実践事例2 「組み体操」

「組み体操」をする中、教師がR男とS男の考えやアイデアを受け入れ、ともに動き出すことで、共通の目的を見つけ工夫したり協力したりする姿が生まれてきた。友達と一緒に遊ぶ楽しさを経験させることで、徐々に友達と一緒に「組み体操」をやり遂げたいという気持ちが高まったと考える。

幼児の姿

組み体操をすると集まったR男、S男、T男、I男、K子の5人。

「どんなふうにしようか」と互いのイメージや考えを出し合い、いろんな動き（一輪車、二段ベッド、3人扇）に挑戦していく。教師「他にどんな組み体操がいいかな？」との言葉に、発想豊かなR男「餅つきをやろう」と言い出した。

教師「どんなふうにするの？」

R男「K子と先生は手をつないで座って、I男は中に入って」と自分のイメージしたことを教師や友達に言葉で伝えながらみんなを動かしていく。

R男は牛乳パックを持って「ペッタン、ペッタン」と餅をつく真似をする。教師「すごい、面白いね、中の餅も動くともっと面白いよ」と共通の目的を持って工夫できるように、言葉をかけると反応してI男も動き出す。その時、アイデアマンS男が制作コーナーで水色の紙を切り、箱に入れて持ってきた。

S男「餅を突いたときに水をつければいいよ」とやってみせる。

教師「すごーい。本物の水みたい」とS男のアイデアを認めた。

その様子を見ていたT男も加わって、餅つきの一連の流れをやってみる。その後、5人がお互いの役を入れ替わりながら楽しんでいた。



教師の読み取り(☆)と援助の工夫(○)

☆日頃から、発想が豊かで、イメージしたことを作り出すことが大好きなR男とS男だったので、周りの友達も二人のアイデアを認めて、受け入れることができたのだと捉える。

☆R男やS男もこれまでいろんな遊びを進めてきたので、自分の思いや考えを伝えることが上手になり、友達との信頼関係も築かれてきたと考える。

○R男のイメージしたことがみんなにも、伝わるように言葉を引き出しながら、共通の目的を持って行動できるように、I男にも具体的な言葉で餅の動きを伝えていく。

○S男のイメージしたことを形にしていく器用さを認めながら、工夫したり協力したりしてみんなの一つのことをやり遂げるようにする。

幼児の変容(◎)と改善点(△)

◎日頃、自分の思いをあまり出そうとしないI男が、組み体操では積極的に取り組む姿が見られた。

その後も、こま回しなどの活動にも、意欲的に取り組むようになってきた。

◎マイペースのK子は女の子一人だったが「おたのしみに！」と期待を持たせる言葉を教師にかけるなど、組み体操に自信を持って仲間と協力しながら取り組む姿が見られた。

△イメージしたことを制作して、仲間と協力しながら遊びを進められるように素材や教材を揃え、より一層の環境構成の工夫や援助に努める。

Ⅶ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 教師が活動に必要な教材を研究・工夫し、幼児が興味をもって取り組めるように環境を整えることで、興味を示して意欲的に遊びに取り組めるようになった。(Ⅵ-1-(6))
- (2) 更なる活動の充実に向けて、幼児とともに環境を再構成することで、お互いに刺激し合いながら取り組み、仲間関係に広がりが見られるようになった。(Ⅵ-1-(6))
- (3) 幼児と一緒に遊んだり活動をする中で、友達のように気づいたり互いのイメージや思いを伝え合いながら、共通の目的を見つけて遊びを楽しめるようになった。(Ⅵ-2-(6))
- (4) 幼児が共通の目的を見つけて工夫したり協力したりしながら、共に遊ぶ楽しさを体験することで、友達と一緒に一つのことをやり遂げる満足感を味わうことができた。(Ⅵ-2-(6))
- (5) 教師が自分の計画に基づいて、理論研究を進めていくことで、環境構成の工夫や援助の在り方が明確になり、保育実践を重ねることで幼児の育ちや仲間同士のかかわりの変容が見られた。

2 今後の課題

- (1) 「表1 友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わわせる環境構成と具体的援助」を年間計画に位置付けながら、幼児理解を深め、教師間の共通理解のもと実践し、更なる環境構成や援助の見直し。
- (2) 2年保育の教育課程に基づき、幼児の発達段階を踏まえて、共通の目的を持ち協同する経験を重ねていく、見通しをもった環境構成と援助の工夫。



ロボット制作



コマを手に乗せる

〈主な参考文献〉

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
西久保礼造著	『改訂保育用語辞典』	ぎょうせい	1995年
無藤隆・柴崎正行編著	『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて』	ミネルヴァ書房	2009年
無藤隆監修・編著			
神長美津子・秋田喜代美編著	『よくわかる幼稚園教育要領』	ひかりのくに	2009年
国立教育政策研究所	『幼児期から児童期への教育』	ひかりのくに	2005年
グループこんぺいとう編著	『おもいっきり楽しめるコーナーあそび』	黎明書房	2008年